

日系外国人大量雇い止め

シャープ亀山工場 スマホ部品減産影響か

シャープ亀山工場（三重県亀山市）で、下請け企業に有期雇用されて働いていた日系外国人労働者約2900人が今年に入り、雇い止めなどで相次ぎ退職していったことがわかった。工場をつくる米アップルの「iPhone」用部品などの減産が影響しているとみられる。外国人を含む非正社員が、雇用の調整弁となっている状況が改めて浮き彫りになった。

は外国人労働者の受け入れ拡大に向けて、出入国管理法改正案の国会での成立をめざしているが、同労組はまずは大量の雇い止めが生じるような環境を改善すべきだと指摘している。同労組によると、亀山工場では5次下請け企業約10社で、日系人が2017年時点で計約3千人働いていた。全て同じグループで、各社とも1〜2カ月の短期雇用で雇い、期限が来ると退職届を出させてグループ内の別の企業で雇うことを繰り返していた。社会保険料の支払い義務を避ける狙

いと見られるという。今年2月ごろから工場の生産量が減り、下請け各社は勤務時間を短くしたり、時給を切り下げたりした。これを受けて、自発的に辞める人が同月ごろから出始めた。さらに下請け企業は、辞めない人たちに雇い止めを通告。その結果、合計で約2900人が退職したと下請け企業側が労使交渉で説明したとしている。ユニオンみえなどは11月22日、労働者派遣事業の許可をえずに労働者を派遣していたなどとして、10社を三重労働局に告発した。

シャープは亀山工場をつくった電子部品を米アップルなどに納めている。一部の部品は、製造ラインごと下請けに任せ、必要な労働

「突然生活できなくなりました」

シャープ工場雇い止め外国人

三重県のシャープ亀山工場では「突然生活できなくなりました」と語気を強めた。同組合によると、同工場では昨年1月頃から3次下請けなどの約10社が雇用した外国人労働者約3000人が働いていた。しかし、今年11月以降、シャープの生産拠点の海外移転に伴って受注が減り、これまでに約2900人が雇い止めなどで職を失ったという。今年9月に雇い止めされたという日系ペルー人のスズキ・ファビオラさん（38）（三重県）は「安定した仕事と聞いていたのに突然辞めさせられた」と話した。

者を集めさせている。複数の関係者によると、生産態勢の見直しで、ラインの稼働も落ちているという。下請け約10社のうち、1社の担当者は取材に、雇い止めの人数などについて「今は答えられない」と話した。シャープの広報担当者は「下請けが雇う労働者の実態を把握しているところだ」とした。（米谷陽一、松浦祐子）